

鏡下鼻副鼻腔手術により摘出した上顎洞後壁異所性智歯の一例. 第56回鼻科学会総会・学術講演会. 甲府, 9月.

- 19) 木村亮平, 伊藤友祐, 中条恭子, 柳 清, 小島博己, 小島博己, 鴻 信義. 好酸球性副鼻腔炎の再手術例の検討. 第56回鼻科学会総会・学術講演会. 甲府, 9月.
- 20) 神谷朋子, 森 恵莉, 関根瑠美, 光吉亮人, 倉島彩子, 飯村慈朗, 浅香大也, 小島博己, 鴻 信義. 繰り返す鼻出血を契機に発見された顔面動静脈奇形の一例. 第28回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会. 宇都宮, 1月.

IV. 著 書

- 1) 山本 裕. 25. 耳鼻咽喉科疾患 耳介・外耳道の先天異常 (耳瘻孔を含む). 福井次矢 (聖路加国際病院), 高木 誠 (東京都済生会中央病院), 小室一成 (東京大) 総編集. 今日の治療指針: 私はこう治療している. 2018年度版. 東京: 医学書院, 2018. p.1521.
- 2) 山本 裕. 18. 耳鼻咽喉科疾患 3. 内耳・後迷路の疾患 18-32. 聴神経腫瘍. 猿田享男 (慶応義塾大), 北村惣一郎 (国立循環器病研究センター) 監修. 1336 専門家による私の治療. 2017-2018年度版. 東京: 日本医事新報社, 2017. p.1368-9.

麻 酔 科 学 講 座

教 授: 上園 晶一	小児麻酔, 心臓血管外科麻酔, 肺高血圧の診断と治療
教 授: 近江 禎子	区域麻酔
教 授: 下山 直人	緩和医療, 疼痛治療 (がん, 非がん)
教 授: 木山 秀哉	静脈麻酔, 困難気道管理, 麻酔中の脳波, 周術期危機管理, 麻酔を支える自然科学
教 授: 下山 恵美	緩和医療, 疼痛治療 (がん, 非がん)
教 授: 坪川 恒久	成人心臓麻酔, 薬物動態, 脳機能
教 授: 鈴木 昭広	気道管理, ポイントオブケア超音波, 医療安全
教 授: 三尾 寧	麻酔薬の臓器保護作用, 麻酔の質管理
准教授: 瀧浪 將典	集中治療, 医療安全, 終末期医療と臨床倫理
准教授: 藤原千江子 (厚木市立病院に出向中)	呼吸, モニター
准教授: 近藤 一郎	脊髄における疼痛機序, 術後疼痛管理
准教授: 内野 滋彦	集中治療, 急性腎傷害, 血液浄化
准教授: 鹿瀬 陽一	集中治療, エンドトキシン, 蘇生教育, シミュレーション医学教育
准教授: 須永 宏	筋弛緩薬
准教授: 庄司 和広	術後疼痛管理
講 師: 肥田野求実	区域麻酔
講 師: 照井 貴子	循環生理
講 師: 木田康太郎	蘇生後脳障害に対する治療法の開発, 吸入ガス, 虚血再灌流障害
講 師: 山川健太郎	心臓自律神経調節による, 致死性心室性不整脈の予防および治療戦略
講 師: 池田 浩平	虚血再灌流傷害, ナノデバイスの医薬応用
講 師: ハンチウォヴィッチ・トマシュ	術後鎮痛管理

教育・研究概要

麻酔科学講座の研究は, 以下の4部門に分けられ

る。ここでは、2018年3月の段階で倫理委員会または動物実験委員会にて承認を受けており、かつ、麻酔科学講座に所属する者が研究代表者を務める研究課題について、研究課題名、研究代表者、進捗状況を列挙する。論文として発表されたものに関しては、研究業績を参照することにして、ここでは述べない。

I. 基礎部門

1. 心肺蘇生後脳症の鎮静剤による脳保護戦略（木田康太郎）：データ収集中
2. 二酸化炭素吸入を用いた蘇生後の新たな治療戦略（木田康太郎）：データ収集中
3. 心停止蘇生後脳障害に対するミトコンドリア標的型治療薬の効果の検証（池田浩平）：データ収集中
4. 水素ナノバブル水長期飲水マウスにおける虚血耐性の検証（池田浩平）：データ収集中
5. 心停止蘇生後脳障害に対する水素ナノバブルの治療効果の検証（池田浩平）：データ収集中
6. 中枢神経系に及ぼす筋弛緩薬の作用機序の解明（上園晶一）：データ収集中
7. ラット摘出灌流心臓における新筋収縮動態の高速高精度解析（照井貴子）：データ収集中
8. 化学療法惹起性神経障害性疼痛の治療法および予防法の開発（下山恵美）：データ収集中

II. 集中治療部門

1. 術中の乏尿と術後急性腎傷害発生の関連（柴綾子）：論文投稿中
2. ベッドサイドでのクレアチニン測定がAKIの発生頻度に与える影響（高折佳央梨）：データ解析中
3. 非心臓外科術後の重症患者における発作性心房細動の危険因子（横田泰佑）：論文投稿中
4. 急性腎傷害に対するカルペリチドの投与効果の後方視的検討（齋藤敬太）：論文投稿中
5. 非心臓外科術後の重症患者における発作性心房細動の多施設疫学研究（吉田拓生）：データ取得中
6. 予定手術後の高乳酸血症と予後の関連（阿部建彦）：論文投稿中
7. 敗血症性DICの診断基準の評価（齋藤慎二郎）：論文投稿中
8. 本邦のICUにおける急性腎傷害についての多施設疫学研究（金子貴久）：データ解析中

9. ICU患者の感染についての疫学調査研究（平崎貴則）：論文作成中
10. 日本集中治療医学会主催のICU入室患者登録システム事業への参画（鹿瀬陽一）：データ収集中

III. 疼痛治療部門

1. 難治性慢性痛患者における健康関連QOL（Quality of Life）低下を引き起こすリスクファクターの検討（濱口孝幸）：データ解析中
2. 人工膝関節置換術（TKA：total knee arthroplasty）後の遷延痛がADL（日常生活動作）に与える影響に関する調査（濱口孝幸）：データ解析中
3. 持続大腿神経ブロックにおけるcatheter-over-needleとcatheter-through-needleの安全性、有用性の比較（八反丸善康）：論文執筆中
4. 難治性疼痛及び慢性疼痛に対する学際的治療の多面的評価（八反丸善康）：データ取得中
5. Fresh cadaverを使用した超音波ガイド下腰方形筋ブロック筋肉内注入（intramuscular quadratus lumborum block：intramuscular QLB）施行後の注入色素の広がり効果範囲についての検討（八反丸善康）：データ収集中
6. 肺悪性腫瘍手術および膝関節置換術後の遷延性術後痛前向き調査（八反丸善康）：データ取得中

IV. 手術麻酔部門

1. カブノグラフィによるモニタリング中の患者におけるオピオイド誘発性呼吸抑制の予測（上園晶一）：データ解析中
2. 大腿骨骨折患者に対する手術の際の麻酔方法が術後経過に及ぼす影響に関する考察（小池正嘉）：データ取得中
3. 遊離皮弁手術における周術期目標指向型輸液療法の前向き調査（近藤一郎）：論文作成中
4. オランザピンの術後悪心嘔吐予防効果に関する多施設共同研究（近藤一郎）：データ収集中
5. 深い筋弛緩維持のためのロクロニウム持続投与量の検討（須永 宏）：データ収集中
6. 運動誘発電位（MEP）モニタリング症例の全身麻酔中の体動発生率に関する検討（木田康太郎）：論文執筆中

7. 胸部・胸腹部大動脈瘤手術における運動誘発電位および脳脊髄液ドレナージの有効性に関する研究（木田康太郎）：データ収集中
8. TEVAR における周術期心合併症の発生数及び発生予測に関する検討（山川健太郎）：論文執筆中
9. 内視鏡下鼻内手術を受けた睡眠時無呼吸症候群患者における術後呼吸器合併症の検討（遠藤新大）：論文投稿中
10. 気管切開後の気管狭窄への影響（奥井聖子）：論文執筆中
11. 胸腹部大血管ステント治療術前の循環器内科医によるコンサルテーションは周術期心合併症の減少に寄与するのか（栗原雄希）：論文執筆中
12. 小児におけるメインストリーム方式 CO₂ センサキット付酸素マスクを使用した呼気二酸化炭素濃度値と血中二酸化炭素濃度値との比較検討（上園晶一）：論文執筆中
13. 肥満患者における術後合併症に関する後方視的研究（庄司和広）：データ解析中
14. 葛飾医療センターにおける定時手術を受けた高齢者の動向（福島東浩）：データ解析中
15. 婦人科悪性腫瘍における術後の持続腹直筋鞘ブロックと持続硬膜外ブロックの鎮痛効果の検討（國吉英樹）：論文作成中
16. JIKEI Airway management for patient safety course (JAMP) 受講前後でのビデオ喉頭鏡による挿管技術の向上調査（鹿瀬陽一）：データ収集中
17. 胸筋神経ブロックが乳房切除・乳房部分切除術に与える効果の検討（木村昌平）：データ解析中
18. II 型糖尿病を有する腹腔鏡下結腸切除術施行患者に対する術前経口炭水化物含有糖水摂取による周術期血糖推移の観察－ミネラルウォーター群との比較検討（木村昌平）：データ収集中
19. マッキントッシュ型ビデオ喉頭鏡を用いた気管挿管教育の有用性の検討（山本 祐）：データ収集中
20. 脊髄くも膜下麻針による硬膜穿刺抵抗の比較検討（内海 功）：データ解析中
21. 閉塞型睡眠時無呼吸症候群（OSAS）が疑われる患者において、全身麻酔下内視鏡下鼻内手術が SAS 関連の呼吸イベントを増悪させるか（ハシチウォヴィッチ・トマシュ）：データ

- タ解析中
22. 術後アセトアミノフェン静注投与は肝機能障害を発生させるか（藤岡頌子）：データ解析中
23. 麻酔科医の熟練度がデスフルラン／セボフルランの使用よりも抜管までの時間に影響しているかを検証－後方視的コホート研究（福島東浩）：論文投稿中
24. インフルエンザ陽性から手術実施までの期間と合併症の発生率について（福島東浩）：データ解析中

V. 公的研究費

2017 年度における公的研究費獲得の結果は以下の通りである。

1. 科学研究費助成事業 基盤研究 (C)・継続：蘇生後脳症における脳保護戦略（上園晶一）
2. 科学研究費助成事業 基盤研究 (C)・新規：ミトコンドリア障害が関与する対称性遠位末梢神経障害の治療法の検討（下山恵美）
3. 科学研究費助成事業 若手研究 (B)・継続：ラット摘出灌流心臓における心筋収縮動態の高速高精度解析（照井貴子）
4. 科学研究費助成事業 若手研究 (B)・継続：二酸化炭素吸入を用いた蘇生後の新たな治療戦略（木田康太郎）
5. 科学研究費助成事業 基盤研究 (C)・新規：蘇生後脳障害に対する新規ミトコンドリア標的型治療薬の開発と治療効果の検証（池田浩平）

「点検・評価」

2015 年度に、臨床における 8 部門（本院における麻酔部、集中治療部、ペインクリニック、緩和ケア、術後疼痛管理部の 5 部門、ならびに、第三病院麻酔部、葛飾医療センター麻酔部、柏病院麻酔部）が確立し、それぞれの部署において、臨床研究への取り組みがおおいに前進した。2017 年度も引き続きすべての部署において臨床研究がアクティブに行われた。臨床研究でまとまった結果が出たものに関しては学会発表にとどまらず、英文論文にできるような指導体制も徐々に整いつつある。基礎研究部門も、米国からの帰国者を中心に活発化し、科研費の獲得数も安定している。2017 年度は、症例報告も含めて 10 篇以上の英文論文を発表でき、昨年同様の生産性を確保できた。

研究業績

I. 原著論文

- 1) Kondo I, Kobayashi H, Suga Y, Suzuki A, Kiyama S, Uezono S. Effect of availability of video laryngoscopy on the use of fiberoptic intubation in school-aged children with microtia. *Paediatr Anaesth* 2017; 27(11): 1115-9.
- 2) Kobayashi H, Uchino S, Takinami M, Uezono S. The impact of ventilator-associated events in critically ill subjects with prolonged mechanical ventilation. *Respir Care* 2017; 62(11): 1379-86.
- 3) Kubo Y, Kiyama S, Suzuki A, Kondo I, Uezono S. Use of supraglottic airway devices in the prone position. *J Anesth Clin Res* 2017; 8(12): 797.
- 4) Bagshaw SM (Univ Alberta), Darmon M (Hôpital Nord), Ostermann M (St. Thomas Hosp), Finkelstein FO (Yale Univ), Wald R (St. Michael's Hosp), Tolwani AJ (Univ Alabama), Goldstein SL (Cincinnati Children's Hosp Med Ctr), Gattas DJ (Univ Sydney), Uchino S, Hoste EA (Ghent Univ, Research Foundation-Flanders), Gaudry S (Hosp Louise Mourier). Current state of the art for renal replacement therapy in critically ill patients with acute kidney injury. *Intensive Care Med* 2017; 43(6): 841-54.
- 5) Iizuka Y¹⁾²⁾ (² Shonan Kamakura General Hosp), Sanui M¹⁾, Sasabuchi Y (Univ Tokyo), Lefor AK¹⁾, Hayakawa M (Hokkaido Univ), Saito S, Uchino S, Yamakawa K³⁾, Kudo D (Tohoku Univ), Takimoto K⁴⁾⁵⁾, Mayumi T⁶⁾, Azuhata T (Nihon Univ), Ito F (Ohta Nishinouchi Hosp), Yoshihiro S (JA Hiroshima General Hosp), Hayakawa K (Saitama Red Cross Hosp), Nakashima T (Wakayama Med Univ), Ogura T (Japan Red Cross Maebashi Hosp), Noda E (Kyushu Univ), Nakamura Y (Fukuoka Univ), Sekine R (Ibaraki Pref Central Hosp), Yoshikawa Y³⁾ (³ Osaka General Med Ctr), Sekino M (Nagasaki Univ), Ueno K (Tokyo Med Univ), Okuda Y (Kyoto Dai-ichi Red-Cross Hosp), Watanabe M (Saiseikai Yokohamashi Tobu Hosp), Tampo A (Asahikawa Med Univ), Saito N (Nippon Med Sch), Kitai Y⁵⁾ (⁵ Kameda Med Ctr), Takahashi H⁴⁾ (⁴ Osaka Univ), Kobayashi I (Asahikawa Red Cross Hosp), Kondo Y (Univ Ryukyu), Matsunaga W¹⁾ (¹ Jichi Med Univ), Nachi S (Gifu Univ), Miike T (Saga Univ), Takahashi H (Steel Memorial Muroran Hosp), Takauji S (Sapporo City General Hosp), Umakoshi K (Ehime Univ), Todaka T (Tomishiro Central Hosp), Kodaira H (Akashi City Hosp), Andoh K (Sendai City Hosp), Kasai T (Hakodate Municipal Hosp), Iwashita Y (Mie Univ), Arai H⁶⁾ (⁶ Univ Occupational Environmental Health), Murata M (Gunma Univ), Yamane M (KKR Sapporo Med Ctr), Shiga K (Seirei Mikatahara General Hosp), Hori N (Hyogo Coll Med). Low-dose immunoglobulin G is not associated with mortality in patients with sepsis and septic shock. *Crit Care* 2017; 21(1): 181.
- 6) 小池正嘉, 大藪 毅¹⁾, 江村 正 (佐賀大), 田中 滋¹⁾ (¹ 慶應義塾大). 地方における初期臨床研修医確保につながる医学部教育とは 佐賀大学医学部で行われる地域医療基盤型教育を通じたコミットメント形成と人材の内部化を血中心に. 社保旬報 2017; 2684: 24-9.
- 7) 鹿瀬陽一. 【敗血症ケアのあたらしい教科書】(Theme 2) 初期蘇生のあたらしいポイント 医師の次の指示がわかる! 呼吸ケア 2017; 15(10): 990-5.
- 8) 金子貴久, 内野滋彦. 【輸液・ポリウム管理】(Part 1) 総論モデルケース 敗血症のポリウム評価と管理 私ならこうする 回答1: 輸液を制限する. *Intensivist* 2017; 9(2): 327-40.
- 9) 岩井健一¹⁾, 讃井将満¹⁾ (¹ 自治医科大), 柴崎多恵子, 岩谷理恵子, 奥田晃久, 平塚明倫, 内野滋彦, 瀧浪将典. 血液ガス分析検査値は非侵襲的陽圧換気療法の失敗を予測できない. 日集中医誌 2017; 24(6): 625-7.

II. 総 説

- 1) 坪川恒久. 吸入麻酔薬の薬物動態. LiSA 別冊 2017; 24(別冊'17): 82-93.
- 2) 鈴木昭広. 【周術期ポイントオブケア超音波画像法】気道超音波 PEAS プロトコル. 麻酔 2017; 66(5): 516-21.
- 3) 鈴木昭広. 麻酔科医が実践する周術期エコー診断学 ABCD sonography. LiSA 別冊 2017; 24(別冊'17): 110-23.
- 4) 須永 宏. 【予期せぬ ICU 入室 1】抜管後の血圧低下と頻脈, そして紅斑 速やかな臨床診断と初期治療. LiSA 2017; 24(10): 1008-12.
- 5) 虻川有香子, 広木公一 (神奈川立こども医療センター). 【重症心身障がい児 (者) の外科】全身麻酔. 小児外科 2017; 49(11): 1077-80.
- 6) 下山恵美, 伊藤健作, 布間寛章, 下山直人. 【日本におけるオピオイド鎮痛薬の臨床と基礎研究の展望】オピオイド鎮痛薬の副作用の現況と新たな展開 オピオイド鎮痛薬による便秘・悪心・眠気対策の現況と新たな展開. ペインクリニック 2017; 38(別冊春): S81-91.
- 7) 下山恵美. 【痛みの臨床と研究: 女性医師の活躍】キャリアを重ねてきた女性医師 化学療法惹起性末梢

神経障害の基礎研究. ペインクリニック 2018 ; 39(2) : 160-6.

Ⅲ. 学会発表

- 1) Suga Y, Tanaka A, Yamaguchi T, Takano K, Ikeda K, Yamakawa K, Kondo I. (Poster) Scheduled acetaminophen for the prevention of postoperative nausea and vomiting in cesarean delivery patients. ANESTHESIOLOGY 2017 (Annual Meeting American Society of Anesthesiologists (ASA)). Boston, Oct.
- 2) Yoshida T, Uchino S. The impact of new-onset atrial fibrillation persistence on mortality and the stroke incidence in critically ill patients. ESICM EUROASIA 2017. Hong Kong, Apr.
- 3) Otani S, Kimura S, Kase Y, Otani Y (Tokyo Metropolitan Children's Med Ctr), Terui T, Yamamoto Y, Kuniyoshi H, Hiroe T (Kyoto Univ). (Poster) Pectoral nerve block and serratus plane block for postoperative pain in breast surgery : a retrospective study. ANESTHESIOLOGY 2017 (Annual Meeting American Society of Anesthesiologists (ASA)). Boston, Oct.
- 4) Suzuki N, Kase Y, Hiroe T (Kyoto Univ), Terui T, Kuniyoshi H, Omura K, Takeda S, Suzuki A, Kiyama S. (Poster) The quality of tracheal intubation skills using video laryngoscopes between anesthesiologists and medical staff inexpert on intubation. ANESTHESIOLOGY 2017 (Annual Meeting American Society of Anesthesiologists (ASA)). Boston, Oct.
- 5) Utsumi I, Omi S, Hasclowicz T. (Poster) The influence of shape of different spinal needles on dural puncture : a study with porcine lumbar dura mater. 36th Annual ESRA (European Society of Regional Anaesthesia and Pain Therapy) Congress (ERSA 2017). Lugano, Sept.
- 6) Ogiwara K, Kimura A, Otani S, Hosaka E, Kuwabara Y, Suga Y, Kida K. (Poster) Renal effects of carperitide in endovascular aortic aneurysm repair patients : a retrospective review. ANESTHESIOLOGY 2017 (Annual Meeting American Society of Anesthesiologists (ASA)). Boston, Oct.
- 7) Suga Y, Yamaguchi T, Ikeda K, Otani S, Takagi T, Kida K. (Poster) Novel submental endotracheal intubation without a disconnection of the endotracheal tube. ANESTHESIOLOGY 2017 (Annual Meeting American Society of Anesthesiologists (ASA)). Boston, Oct.
- 8) Kuwabara Y, Tajima K, Sugiyama A, Kojima C, Tanaka A, Yamakawa K. (Poster) Preoperative cardiology consultation is not effective enough to reduce cardiac event in patient with aortic disease. ANESTHESIOLOGY 2017 (Annual Meeting American Society of Anesthesiologists (ASA)). Boston, Oct.
- 9) Hayashida K¹⁾, Ikeda K, Marutani E¹⁾, Ichinose F¹⁾ (¹ Massachusetts General Hosp). (Oral) Soluble guanylate cyclase- $\alpha 1$ in bone marrow derived cells is required for inhaled nitric oxide to improve outcomes after cardiac arrest and cardiopulmonary resuscitation in mice. American Heart Association Scientific Sessions 2017 Resuscitation Science Symposium. Anaheim, Nov. [Circulation 2017 ; 136(Suppl.1) : A18149]
- 10) 宮山直樹, 池田浩平, 桑原雄希, 北村俊平, 近藤一郎. (ポスター) 腹腔鏡下大腸手術後における腹横筋膜面ブロックを用いた多角的鎮痛法の有効性. 日本麻酔科学会第 64 回学術集会. 神戸, 6 月.
- 11) 清水啓介, 木村斉弘, 須賀芳文. (ポスター) 帝王切開中に発症した DIC 先行型羊水塞栓の診断. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部第 57 回合同学術集会. 東京, 9 月.
- 12) 吉村真弓, 山口知紀, 須賀芳文. (ポスター) 先天性心疾患合併妊娠における帝王切開の一例. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部第 57 回合同学術集会. 東京, 9 月.
- 13) 平崎貴則, 浅野健吾, 中西智博, 金子貴久, 亀田慎也, 吉田拓生, 遠藤新大, 齋藤敬太, 内野滋彦, 瀧浪将典. (ポスター) VV-ECMO 管理中に穿刺, 手技とは関連ない後腹膜血腫が発生した 1 例. 第 45 回日本集中治療医学会学術集会. 千葉, 2 月.
- 14) 青木友里, 鹿瀬陽一. (ポスター) ビデオ喉頭鏡を用いた挿管実習コースが挿管技術に及ぼす影響. 日本麻酔科学会第 64 回学術集会. 神戸, 6 月.
- 15) 中尾順哉, 國吉英樹, 山口知紀, 藤井輝之, 照井貴子, 鹿瀬陽一. (ポスター) 胸部大動脈瘤術後に欠神発作を生じ原因検索に難渋した一症例. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部第 57 回合同学術集会. 東京, 9 月.
- 16) 酒巻大輔, 小池正嘉, 鹿瀬陽一. (ポスター) 慢性膿胸患者に対する胸腔鏡下ドレナージ術における麻酔方法が及ぼす術後経過の違いに関する検討. 日本臨床麻酔学会第 37 回大会. 東京, 11 月.
- 17) 伊藤嵩人, ハシチウォヴィッチトマシュ, 村上裕一, 佐藤 優, 内海 功, 近江禎子. (ポスターディスカッション) 急性期疼痛管理チームによらない多角的鎮痛法の実践. 日本麻酔科学会第 64 回学術集会. 神戸, 6 月.
- 18) 関口真利江, 小林秀嗣, 荻原 薫, 福島東浩, 庄司和広. (ポスター) 気管挿管後に低換気アラームを来し, 鑑別に難渋した外傷性血気胸手術の一例. 日本麻酔科

学会関東甲信越・東京支部第57回同学術集会, 東京, 9月.

- 19) 安藤恭子, 小林秀嗣, 福島東浩, 甫母祐子, 伊藤健作, 庄司和広. (ポスター) 術前合同カンファレンスにより安全な周産期管理を行えた脳腫瘍合併妊娠の1例. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部第57回同学術集会, 東京, 9月.

IV. 著 書

- 1) Uchino S, Chapter 6: Kidney-specific severity scores. In: Ronco C (Ospedale San Bortolo), Bellomo R (Austin & Repatriation Med Ctr), Kellum J (UPMC Presbyterian), Ricci Z (Bambino Gesù Children's Hosp), eds. Critical Care Nephrology. 3rd ed. Amsterdam: Elsevier, 2017. p.29-34.
- 2) 高野光司. II. 小児麻酔の実践 9. 術後管理 a) 術後回診. 上園晶一, 木山秀哉編. 小児麻酔臨床実践ガイド: FAQでわかりやすい! 第2版. 東京: 総合医学社, 2017. p.199-205.
- 3) 奥田崇夫, 坪川恒久. V. 血液・凝固 15. 貧血. 武田純三 (国立病院機構東京医療センター) 編. 新合併症患者の麻酔スタンダード: 他科依頼にいかに対応するか. 東京: 克誠堂出版, 2017. p.132-9.
- 4) 近藤一郎. 2. 区域麻酔 14) 麻酔科医・医療従事者への障害 麻酔ガスへの職業曝露. 高崎真弓 (宮崎大), 河本昌志 (広島大), 白神豪太郎 (香川大), 萩平 哲 (関西医科大) 編. 麻酔偶発症 A to Z. 東京: 文光堂, 2017. p.564-5.
- 5) 虻川有香子, 尾崎 真 (東京女子医科大). 3. 手技に起因するもの 3) 気管挿管に関するもの 気管挿管に伴う声帯麻痺・披裂関節脱臼. 高崎真弓 (宮崎大学) 編集代表. 麻酔偶発症 A to Z. 東京: 文光堂, 2017. p.503-4.

V. その他

- 1) Yamaguchi T, Uchino S, Kaku S, Teshigawara A, Nishimura K, Takinami M, Murayama Y, Uezono S. Delayed airway obstruction after craniotomy in the park-bench position: two case reports. Journal of Anesthesia & Pain Medicine 2017; 2(2).
- 2) Hamaguchi T, Suzuki N, Kondo I. A case of anesthesia mumps that required postoperative re-intubation. JA Clin Rep 2018; 4: 22.
- 3) Hoshino R, Kamiya Y, Fujii Y (Niigata Univ), Tsubokawa T. Lipid emulsion injection-induced reversal of cardiac toxicity and acceleration of emergence from general anesthesia after scalp infiltration of a local anesthetic: a case report. JA Clin Rep 2017; 3: 9.

リハビリテーション

医 学 講 座

- | | |
|------------|--|
| 教 授: 安保 雅博 | 中枢神経疾患のリハビリテーション, 失語症および高次脳機能障害, 運動生理, リンパ浮腫 |
| 教 授: 渡邊 修 | 脳外傷のリハビリテーション, 高次脳機能障害 |
| 教 授: 小林 一成 | 神経筋疾患のリハビリテーション, 脳卒中中の機能予後, 歩行分析 |
| 准教授: 佐々木信幸 | 脳卒中中のリハビリテーション, 脳画像解析 |
| 准教授: 武原 格 | 脳卒中中のリハビリテーション, 嚥下障害, 脳損傷者の自動車運転 |
| | (東京都リハビリテーション病院に出席中) |
| 准教授: 船越 政範 | 脳卒中中のリハビリテーション, 小児のリハビリテーション |
| | (とちぎリハビリテーションセンターに出席中) |
| 講 師: 竹川 徹 | 運動器のリハビリテーション, 痙縮の治療 |
| | (東京通信病院に出席中) |
| 講 師: 鄭 健錫 | 脳外傷のリハビリテーション, 脊髄損傷, 義肢装具 |
| | (神奈川県リハビリテーション病院に出席中) |
| 講 師: 菅原 英和 | 脳卒中中のリハビリテーション, 脊髄損傷, 嚥下障害 |
| | (初台リハビリテーションセンターに出席中) |
| 講 師: 上出 杏里 | 障害者スポーツ, 小児発達障害 |
| | (国立身体障害者リハビリテーションセンターに出席中) |
| 講 師: 宮村 紘平 | 脳卒中中のリハビリテーション, 小児のリハビリテーション |
| | (河北リハビリテーション病院に出席中) |

教育・研究概要

I. 反復性経頭蓋磁気刺激 (rTMS) による脳損傷治療に関する研究

1. 13名のアパシー患者に対する無作為割り付け試験. 前帯状皮質背側部 (dACC) から内側前頭前野 (mPFC) にかけて高頻度 rTMS を5日間施行した. アパシーの程度: Apathy Scale (AS), うつの程度: Quick Inventory of Depressive Symptomatology (QIDS) とも, 高頻度 rTMS 群では介入前後で有意に改善し, AS の変化は rTMS 群で